

『私にはなにもできないしょうがない?』

富岡市立富岡小学校 6年 太田 あのん

私は苦しい人のために何もできない自分がかゆしかった、いやだった。今も誰かが貧困や環境問題で救いの手を求めているというのに、テレビなどでしかその人たちを応援することしかできない。なのにまわりの人たちは「しょうがない」という言葉や「かわいそう」などのことしか言わない。

私は納得がいかなかった。学校に行けたり、笑顔で過ごせたりする、私たちのように、世界中のみんながならないとだめだと思っているからだ。なぜなら、みな人間が原因となっていることだからだ。人間が原因となったことは人間が解決すべきと私は思っている。だが私はまだ小学生でなんの権力もない。大人は「心配しなくて平気」という。これは心配ではない。くゆしかったが、私は何も言えなかった。そして泣いた。ぜったいにそんな人たちのためにも、自分でできることはしなくてはと思った。

そんな時、学校でユネスコの話聞いて私は、「これだ!!」と思った。

そして作文を書くとき聞いて、この作文がみんなの心に届いたらな、と思った。ユネスコの活動には目をうばわれた。そしてこれを機にSDGsについて知りたくなった。そして調べているうちにマララさんという人が目にとびこんだ。銃撃されてもあきらめないという思いに、「こんな人になりたい」と

思った。ほかの人にも考えてほしい。SDGsを守ろうとよく言うけれど、ほとんどの人が気にしていない。私は地球の環境としんしに向き合い、その課題を解決することが大切だと思う。地球の豊かな環境と世界の平等を取り戻していくことが大切であり、今の問題としっかり向き合うということを忘れないで私はみんなと仲良くしていきたい。

たとえお金がなくても財力がなくても同じ人間、そして、世界に1人しかいない大切に欠けてはならない人、みんながそんな存在になれるそんな思いになれる、そんな世界がいい。

さあ、あなたもこれを機にSDGsやユネスコについて考えてみませんか？調べてみませんか。

今できることを今、あとで後悔しても時間は戻らない。つまり今できることを全力で。

そして、みんなの地球を守っていけるよう活動していきませんか？みんなを救えるものは身の回りにも、たくさんあります。例えばコンビニの募金の箱に募金する。子どもがいるなら書き損じハガキを学校におさめるなど、自分でもできることがたくさんあります。

みんなのために地球のために、自分でできることもたくさんある。そしてユネスコの活動を支援することだってできる。

私が大人になったらこのようなことを考え実行できるようになりたいと思った。

『私が変われば世界が平和に近づく』

富岡市立富岡小学校 6年 山崎 葵

私がユネスコのことを知ったのは、ある日、テレビをみていた時です。たまたまユネスコのCMが流れてきて、その時は「ユネスコの人たちはみんな、いい人だな。」としか思いませんでした。

それから約6年後。私はユネスコ作文を書くためにユネスコについて調べ始めました。するとユネスコは当時のイメージよりも、もっとすごい団体ということが分かりました。

まず『世界寺子屋運動』。これは、学校に行けない子供たちを支えんする運動です。私は日本にもこんな子供たちがいるのか、調べてみました。すると結果はゼロ人。日本の子供たちはみな教育を受けられる環境にいるということです。

そしてもう少しみてみるとこんなことが分かりました。日本とユネスコは深い関係でつながっているということです。日本は、第3位の分担金拠出国としてユネスコを助けているのです。これを知った時、私は第1位と第2位も知りたかったので調べてみると、第1位は米国（アメリカ合衆国）、そして第2位は中国でした。そして私は「中国のとなりに並ぶなんて、日本は日本なりにユネスコの手伝いをしているのだな」と思いました。

『世界寺子屋運動』について調べた後、私はふいにユネスコのロゴの由来がきになりました。調べてみると『ユネスコ

のロゴマークは、「人の心の中に平和のとりでを築く」という大きな目標のもと、平和の象徴である鳩を地球に見立て、デザインされています。』と記載されていました。たしかに初めて見た時に、真ん中に鳥がいることに気づきました。けれど鳩とは分かりませんでした。もし次のユネスコのマークを考えるのならば、もう少し鳩を分かりやすく（例えば世界中の鳩のイメージを取り入れたり）してほしいです。

そして私は自分たちにも出来ることがあるのか気になり、調べました。私たち子供にできることは2つありました。

1つ目は書きそんじハガキを探すことです。そして見つけたらお父さんお母さん、もしくは大人の人に日本ユネスコ協会連盟に送ってもらいます。そうすることで集まった書きそんじハガキが、11枚たまると、カンボシアの子供1人が1ヶ月学校へ行けるのです。そして1年間学校に通うために必要な書きそんじハガキの枚数は132枚です。

2つ目に出来ることは、書きそんじハガキと同じく、今度は未使用の切手を集めることです。ユネスコに送る際は、回収専用封筒チラシを組みたてて、切手を入れ、直接ゆう送するとユネスコに届けることができます。

この作文を書くにあたってユネスコの人たちについてくわしく知れたと思います。しかしまだ知りたいことがあります。なので夏休み中に自主学習をして、ユネスコの謎をどんどん解明していきたいです。

『平和への一歩』

富岡市立西小学校 6年 坂 里緒菜

ユネスコという言葉を知った事はあるけれど、どのように活動をしているのかはあまり聞いたことはないので作文をきっかけにユネスコ協会について調べてみることにしました。協会がとくに力を入れていることは、人々が教育を受けられるようにし、自然科学と社会科学の研究を促進し、アイデンティティの表明を支援し、世界の自然遺産や文化遺産を保護し、情報の自由な流れと報道の自由を促進していることです。

そこで、去年姉が参加したウクライナ留学生によるユネスコシンポジウム講演の話思い出しました。姉から聞いた話では、私が想像するよりも悲惨な出来事が起きていました。留学生と友達とのメールのやり取りでは、今日も互いに生き残る約束をしていました。普段友達とゲームの話をしている私にとっては、信じられない話でした。他にも、大学がロシア軍のしゅうげきにあたり、毎晩警報の音で眠れなかったりと私の日常生活ではありえない話でした。ですが戦争が始まってから二年以上が経つ現地の人々にとってはそれが日常になってしまっています。そこで私は今送っている平穏な日常の大切さに気づかされました。毎日家族とごはんを食べていることも、みんなと、学校に行けることも、友達に会えるあたりまえが有難いことに気づかされました。このことを踏まえて、ご飯を作ってくれる母や、勉強を教えてください先

生、毎日遊んでくれる友達と楽しく日常を過ごすことが平和への一歩だと思いました。戦争を止めることは私一人にはできないけれど、この一歩一歩の積み重ねが平和な世界に繋がると願っています。

『平和のために』

富岡市立富岡中学校 1年 茂木 蓮旺

僕は、驚いた。一日で食べ物がなく栄養失調で死んでしまう人が四から五万人もいると知った。そんな人を一人でも減らそうとしているのがユネスコという組織だ。ユネスコとは、教育、文化の発展、世界遺産の登録などを目的とした国際協定である。そこで僕は、ユネスコの活動を調べてみた。その中で、印象に残った活動を紹介する。

まず一つ目は、「世界寺子屋運動」だ。

この活動は、貧困や紛争などのさまざまな理由で学校に行けない子供を、年齢、宗教、性別関係なく学べる場をつくる活動だ。その他にも、コミュニティーの拠点としても使われたり、ボランティア活動など、多様な役割を果たしている。二億人ほどいる学校に行けない子供たちのため、千九百八十九年から活動をし続けている。僕たちは、学校に行けることに感謝することが大切だと思う。

そして二つ目は、SDGsの取り組みだ。最近注目されているSDGsの取り組みだが、これも、ユネスコの取り組みだ。SDGsとは、二千五年に、持続可能な開発のための取り組みとして、二千三十年までに達成する十七の目標だ。そのためユネスコは、各目標を達成するための社会づくりや、持続可能な社会を実現するための、社会を創る人を育てるため、学校教育にも力を入れている。そのためにも僕たちは、十七の

目標をしっかりと理解し、ポイ捨てしない、食べ残さないなど、しっかりと基本的なことから意識していくことが大切だと思う。

最後に三つ目は、募金活動だ。ユネスコには、貧困地域や震災地域、子供支援募金などたくさんの募金がある。身近なコンビニ、お店などから募金できるのもあれば、ホームページから募金するなど色々な方法で、色々な形で募金できる。それに、明るい未来を守るための募金もある。皆が少しずつ募金をすることで子供たちの未来を守り、少しでも世界が良い方向に動くと僕は思う。

このように、ユネスコは、子供たちの希望ある未来のため、世界をより良くするため、少しでも多くの命が救われるための活動をしている。それに気づき、たとえ小さな力でも皆がすれば大きな力になると思う。だからこそ気づき、実行することが大切だと思う。

『日本で最初の富岡製糸』

富岡市立富岡中学校 2年 村井田 一颯

僕の住む富岡市には、富岡製糸場という世界遺産があります。群馬県の上毛カルタにある「日本で最初の富岡製糸」ですが、何が最初なのかそして、上毛カルタに描かれている女性の方達は、どのような仕事や生活を送っていたのか詳しく知りたいと思って色々と調べてみました。

明治初期の絹産業発展に大きく貢献した「富岡製糸場」。現在も一八七二年の開業当時の建物がそのままの状態に残っており、二〇一四年には「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録されました。登録されてから観光客が増えたので、お土産屋さんやお店などが沢山出来たり、町がきれいになって行きました。また、今年は、「富岡製糸場世界遺産登録一〇周年記念」なので、イベントなども、開催されています。町を盛り上げるために、色々とアイデアを出し合って、多くの人たちに、知ってもらおう努力をしているのだなと思いました。また、この富岡製糸場の設置主任としてプロジェクトを主導したのは、新一万円札の渋沢栄一と知ってとてもビックリしました。その建設には、絹産業として当時世界をリードしていたフランスの技術者のポール・ブリュナを雇い、万全の状態が進められたそうです。

次に、働く工女さんたちの生活についてです。まゆから生糸を取る作業は器用である女性の方が適していたので、創業

から一年後には、五〇〇名以上の女性たちが働いていたそうです。三つの工程に分かれ仕事をしていて一つ目が原料となるまゆの選別を行う「繭撰」、二つ目がまゆから生糸を作る「繰糸」、そして三つ目がまゆから取った糸を大きな枠に巻き取る「揚枠」があります。この中で人気だった工程は、「繰糸」。一般的に工女は経験を積むと、「繭撰」→「揚枠」→「繰糸」の順で昇級され、更にその習得レベルに応じて一等から七等までの階級が存在しました。その為彼女たちは、一等工女へと昇給して故郷へ帰ることを目標に、日々技術を磨いて競っていたそうです。そして僕が驚くのは労働環境です。明治時代の働き方は、とても大変だったと想像していたからです。富岡製糸場には宿舎、食堂などがあり、基本的にその寮費や食費は全て無償。また一日の労働時間は八時間で日曜日は休み。更に夏休みと年末年始休暇がそれぞれ十日間ずつあり、夏の暑い日には、四時間の休憩があったそうです。すごく働く人たちに良い環境だと思いました。

このように働く人の育成制度や労働環境を整備するという事は、富岡製糸場が最初だったと知り、そのような世界遺産のある町に住んでいることを僕は誇りに思います。僕の祖父も商工会議所の会頭として地域のために働いていますので、僕も富岡の良さを多くの人に知らせたいと思いました。

『歴史を次に繋げるために』

富岡市立富岡中学校 2年 細山 凜

私は、小学一年生の頃から体験学習をするために毎年富岡製糸場に行っています。私は身近に世界遺産の建造物があることがすごいことだとは思っていませんでした。しかし、中学一年生になり富岡製糸場について詳しく調べる機会がありました。そこで私が調べた富岡製糸場はすごいんだと思うようになった理由について二つ紹介します。

一つ目は、国際的な交流を経て造られたということです。明治初期、日本とフランスは蚕糸業において互いに戦略的なパートナーだったこともあり、富岡製糸場は、フランス人の指導者ポールブリュナのもとで設立されました。その後もポールブリュナ率いる多くのフランス人技師団が住み込み日本人にフランスの生糸技術を伝えていました。現在も富岡製糸場敷地内には実際にフランス人教師の宿舎となった女工館やポールブリュナ一族が住んでいた首長館も残っています。私はこれらのことから富岡製糸場は絹産業で日本の貿易に貢献していただけてだけでなく、日本とフランスが関わるきっかけともなった歴史ある建造物だったのだと感じました。

二つ目は、富岡製糸場の作りについてです。富岡製糸場は主にレンガで造られています。レンガは吸水性が高く、乾燥時には水分を蒸発させます。そのため富岡製糸場はレンガによって柱などの木材も建設時からあまり変わることなく保た

れてきたのだと考えられます。また、一つ目の理由にもあったように富岡製糸場は建設にフランスが大きく関わってきました。そのため、実は富岡製糸場は当時の一般的なレンガの積み方とは少し違った積み方で造られたのです。富岡製糸場で用いられているレンガの積み方はフランス積みと言ってレンガの向きを長い面と短い面を交互に並べた作りになっています。この積み方はデザインの的に美しく見える反面、他の積み方より壊れやすいという難点があります。しかし、富岡製糸場は木骨レンガ造の建造物群を良好な状態で保ってきました。わたしはこれを不思議に思いつつもすごいと感じました。

これらのことから、富岡製糸場はただ生糸を作っていただけでなく、貿易や国際的にも日本に貢献してきた歴史ある建造物だということがわかりました。また、建設時から現在に至るまでたくさんの出来事があったにも関わらず、建設時とほぼ変わらない良好な状態を保ってきたのだと学びました。富岡製糸場は観光客が年々減少してきていることが今の現状です。しかし、富岡製糸場がどんな建物なのか知らないだけではないでしょうか。富岡製糸場が身近にある人もそうでない人も一度、調べてみてはどうでしょうか。実際に見て、体験してみることが大切です。富岡の歴史を次に繋げるために。

『みんなで幸せになるために』

富岡市立富岡中学校 2年 小井土 ひかり

「いただきます。」から始まる食事。「おはよう。」、「おはようございます。」から始まる学校。私達はこのことが「普通」にできている。でも今現在、戦争や紛争の拡大で貧困な生活に苦しんでいる人達がいる。そんな中、私達の生活が平和に続かないのではないかと思っている人もいるだろう。しかし、ユネスコでは、一般に共有する価値観を尊重することに基づき、持続的な開発、平和の文化、人権の順守、貧困の削減を目指し活動をしている。ユネスコ（国連教育科学文化機関）は、日本を含む百九十三の国と地域が加盟しており、文部科学省の中には「日本ユネスコ国内委員会」という組織が置かれて、日本国内におけるユネスコ活動を盛り上げる役割を担っている。では、ユネスコでは、持続可能な開発目標（SDGs）の実現のためにどんなことをしているのだろうか。

持続可能な開発目標（SDGs）は二千十五年に国連で決められ、全部で十七の目標から構成されており、世界全体で二十三十年までに持続可能な社会を達成することを目指している。ユネスコは目標四「教育」の達成を担う機関として、地域や地球全体の未来のことを考えて行動できる人を育てる「持続可能な開発のための教育（ESD）」を広めるための様々な取り組みを行っている。貧困や戦争、紛争で苦しんでいる人達がいる中、幸せに暮らせている私達にはどんなことができるの

だろうか。

二千二十年時点での貧困の現状では、世界の十人に一人が絶対的貧困であった。まず、一人一人が「貧困をなくそう」という意識をもち、①支援団体への寄付や募金を行う。②貧困支援につながる商品を選んで購入する。③貧困支援のボランティア活動を行う。この三つを行うだけでも貧困に苦しんでいる人の小さな力になると思う。少しでも、一人一人が力になることで小さな力が大きな力になり、苦しんでいる人達を助けられるかもしれない。そして、小さな力が大きな力になることで、二千三十年までにSDGsの目標一貧困をなくそうという目標が達成できるのではないかと思う。そして、家でも力になれることはあると思う。ご飯を残さないようにしたり、無駄遣いをしないようにすることを心がけることでみんなが幸せになれると思う。

私達の「普通」が普通にできていない人達のために、自分たちにできることを行うことが大切だと思う。「みんながやってるから、私もやろう。」ではなく「自分から」やることで、みんなが幸せになれる平和でより良い世界をつくっていけるのではないだろうか。

『平和を守る』

富岡市立富岡中学校 2年 酒井 叶音

平和とはどのようなことだろう。戦争や紛争をしないや、みんな平等にするなど、他にもたくさん「平和」が私達の身の周りにはあふれている。その中でもすべて共通してあるのが「みんなの笑顔」だ。

みなさんは今紛争を行っている国が何ヶ国あるか知っているだろうか。現在紛争を行っている国は十ヶ国程だ。紛争はテレビで放映されることが少ないが、粉れもない「争い」だ。

「争い」による犠牲者は今も増加しており、毎日のように「だれかの笑顔」が消えてしまっている。

今の日本はどうだろう。紛争や戦争はしていないが、暴力やいじめなどの「争い」が現在も続いている。そのたびにどちらかの笑顔が毎回うばわれていく。

私は最近、祖父が亡くなり、なんとなく私の身の周りの人がどんよりしていた。身の周りが暗く重たいふんいきになると自分も暗くなってしまうということに気がつけた。そして、だれかが笑うと、みんなも笑うということにも気づけた。

私は、この経験を通して「自分がよければ良い」のではなく、「相手も自分も良い」という関係を作り上げていきたいと思った。そのためには、相手にやられたらいやなことは、自分もしない。マナーやルールを守る、などができる。「あたり前」のことを「あたり前」にするということが、一番簡単そ

うで一番重要なことなのかもしれない。ルールやマナーを守
ることはあたり前でとても重要なことだ。あたり前を守ること
ができるようになったら事件の件数も減り「みんなの笑顔」
が、たくさん増えるかもしれない。もしかしたら警察の人達
が少し楽になる日が来るかもしれない。そしたら、世界が優
しくなるかもしれない。

私は、いつか「争い」が少ない平和な世界になってほしい
と思っている。たくさんの人が「笑顔」でくらせる世界を作
っていきたいと思っている。これから何が起こるかは分から
ない。一人ではできないことが増えていくかもしれない。そ
んなときは、みんなで「笑顔の輪」を作ってほしい。そうす
ることで、周りの人々も明るくなり、そして自分も明るくな
れると思うから。一人が笑えば、みんなが笑う。そんな世界
にしていきたい。「笑顔の輪」を作り「平和」を作る。

『世界遺産の価値』

富岡市立富岡中学校 3年 櫛島 光

日本の世界遺産といえば何を思い浮かべるだろうか？「姫路城」「日光の社寺」「富士山」などイメージする人が多いのではないだろうか。これらの建造物・地形はどれもその迫力や美しさから多くの人を魅了する人気の観光地である。しかし「世界遺産」としてそれぞれを見たときに「なぜ、これらは世界遺産なのか。」と問われたとき、明確な理由を言える人は少ないのではないだろうか。実際に僕の住んでいる町にも「富岡製糸場」という世界遺産があるが、この問いに答えられる自身はない。一体、どんな理由から、これらは「世界遺産」なのか。「富岡製糸場」を例にして考えてみよう。

そもそも、世界遺産とは何だろうか。日本ユネスコ協会連盟にはこのように書かれていた。「世界遺産とは、地球の生成と人類の歴史によって生み出され、過去から現在へと引き継がれ、私達が未来に引き継いでいくべき宝物なのです。」どうやら「世界遺産」は、人類の歴史と関係しているようだ。富岡製糸場の場合、どんな歴史があるのか調べてみた。すると、富岡製糸場は一八七一年にフランスのポール・ブリュナの計画書をもとに操業が開始され、一九八七年まで稼働していたことが分かった。まず感じたのは、四十年ほど前まで、富岡製糸場が稼働していたことへの驚きだ。今まで物理的に身近にあった製糸場だが、「明治時代の建物」というイメージであ

り、どこか遠くのものに感じていたが、この事実を知ったことで心的に身近に感じた。しかし、なぜ日本の製糸業にフランスが関わるのだろうか。調べによると一つは、当時の日本に技術がなかったこと。もう一つは、当時世界中で「微粒子病」という蚕の病気が流行し、ヨーロッパを中心に生糸がつくれなくなってしまったことだ。こうした状況下で、生糸の生産を可能にした製糸場は、世界のニーズに応えるとともに、当時、高級だった生糸を、一般の人々も広めることに役立ったそう。 「富岡製糸場はなぜ世界遺産なのか？」 その理由は、その歴史を調べることで分かった。

この出来事から学べることはもう一つある。それは、国際的な課題がみつかったときの相互扶助の大切さだ。自国に関係ないからと、世界の課題から目をそむけるのではなく、互いに助け合うこと。これは現代でも同じことが言えるのではないだろうか。富岡製糸場に限らず全ての世界遺産は、私達に多くのことを教えてくれる。だからこそ、「人類共通の宝」であり、私達が大切にしていけることが大切だ。ただの観光地として見るのではなく、歴史とそこからの教訓を与えることで「世界遺産の価値」に気づけるのではないだろうか。

『僕たちにできること』

富岡市立南中学校 1年 半田 蓮

みなさんは、ユネスコというものを聞いたことはありますか？耳にしたことはあるけれど、正しく答えられる人は、あまりいません。ぼくもその中の一人です。

そこで、インターネットを使い調べてみることにしました。

ユネスコの始まりは、1946年11月4日、第二次世界大戦で、二度と戦争をくり返さないために活動を始めました。教育・科学・文化の交流を通じて、各国民が、たがいに理解を深め世界平和のため、知的・精神的な連帯をはかる機関です。本部はフランスのパリ、日本は1951年（昭和26年）に加盟しました。ユネスコの主な活動として、一つ目は、U－Smile みんなでつなぐ子ども応援プログラムです。困難な状況に置かれた日本の子どもたちを、地域協働かつ包括的に支援し、健やかな成長を育むことを目的とし、子どもたちが夢や希望を持てる社会を目指している活動です。

二つ目は、災害子ども教育支援募金です。世界中のたくさんの人たちから募金をしてもらい、大きな災害で希望する高校に進学できそうにない子を助けてあげるとというのが主な活動です。

三つ目は、世界寺子運動です。基本的人権として、誰もが教育の機会を得て、貧困のサイクルを断ち切り、自ら考えて行動を起こしていけるように、1989年から活動を続けて

います。寺子屋は、年齢、宗教、性別に関わらず、全ての人が公平に学べる場として海外では **community Learning center**〈CLC〉と呼ばれています。このような活動をするのが世界寺子運動です。

四つ目は、世界遺産活動です。世界遺産とは、人類共通の遺産（宝物）であり、次の世代に引き継いでいかなければいけないものです。世界遺産活動では、主に途上国の世界遺産を対象とし、その国の中で遺産を守り、次の世代へ引き継いでいくことが主な活動です。

五つ目は、SDGs 達成に向けた次世代育成です。誰も置き去りにしない、より良い地球を作るために、グローバルな視野を持って、地域で活動する次世代を育成することが主な活動です。

ユネスコの活動を知って、僕にできる事を考えました。それは小さな喜びをしっかりと感じる事、身の周りの人を笑顔にする事、当たり前を当たり前と思わない事だと思います。自分達の欲望にとらわれすぎて周りが見えなくなってしまうように、世界中の一人一人が自分の身の周りの小さな所から始めていく、その小さな幸せの積み重ねが、さらに連鎖し、平和を作り上げていくのではないかと思いました。